

序論：All Japan Radiologyの推進 による放射線医療の未来へ ——JRCと幅広い連携が拓く2040年への道

青木 茂樹 日本ラジオロジー協会代表理事

はじめに：JRCとAll Japan Radiologyの理念

日本ラジオロジー協会（JRC）は、日本医学放射線学会（JRS）、日本放射線技術学会（JSRT）、日本医学物理学会（JSMP）、日本画像医療システム工業会（JIRA）の4団体により構成され、診断、治療、技術、産業を結集した総合的な放射線医療の推進を担っています。毎年春に開催されるJRC総会は、2万人近い参加者を集め、わが国最大級の医学系学術集会として国際的にも高い評価を受けています。

さらに、JRCに加えて、放射線診療4団体連絡協議会—日本医学放射線学会（JRS）、日本放射線科専門医会・医会（JCR）、日本診療放射線技師会（JART）、日本放射線技術学会（JSRT）—が2021年に発足し、All Japan Radiology体制の下、診療、教育、制度設計など多面的な連携を進めています。

このAll Japan Radiologyの取り組みには、日本放射線腫瘍学会（JASTRO）、日本核医学会（JSNM）、日本IVR学会（JSIR）といった専門分野の学会にも賛同いただき、診断から治療、インターベンション、核医学まで、放射線医療全体を網羅的にカバーする態勢が整っています。特にJASTROは、放射線科専門医制度の確立と運用において重要な役割を担っています。私がJRS理事長在任中には、JASTRO、JSNM、JSIRの代表をJRS理事会に迎え入れ、学術と診療の連携をより一層強固なものとし

ました。

このように、放射線医学、放射線治療、核医学、インターベンション、診療放射線技術、医療機器産業が有機的に結びついている点こそが、日本の放射線医療の最大の強みです。

2040年問題に立ち向かう All Japan Radiologyの使命

2040年には、団塊ジュニア世代が65歳以上となり、日本はかつてない超高齢社会を迎えます。一方で、国内の人口減少、産業構造の縮小といった社会課題は深刻さを増しており、放射線診療もこうした変化の中で、新たな在り方を模索することが求められています。

この未来に備えるため、医療はこれまで以上に効率化を推進しなければなりません。放射線領域は、AI支援による診断精度向上、遠隔診断・治療支援の活用がすでに進んでおり、さらに、被ばく最小化、個別化治療、診療放射線技師等のタスク拡大による人材最適配置——これらを総合的に進めることで、限られた医療資源の中でも、質を損なうことなく医療提供を続けていく必要があります。

All Japan Radiology体制の下、医師、診療放射線技師、産業界が一体となって課題解決に挑むことが、未来に向けた絶対条件となっています。

世界に誇る放射線医療 モデルの発信へ

日本の放射線診療は、診断精度、安

全性、技術開発力において世界でも高い水準を誇っています。その先進性は国際的にも注目されており、例えば*Nature*誌¹⁾では、日本の放射線医療の強さと連携の妙が高く評価されました。

この強みを生かし、今後は単に国内需要に対応するだけでなく、「日本発の放射線医療モデル」を世界に向けて発信・輸出していくことが重要です。

おわりに：JRCとAll Japan Radiologyの未来

放射線領域は、日本の医療・ヘルスケアの未来を切り拓く中心的存在となり得ます。JRS、JSRT、JSMP、JIRAのJRC団体、JASTRO、JSNM、JSIR、JCR、JART——これらの団体が相互に尊重し、協力し合う枠組みがあるからこそ、日本は2040年以降も放射線領域で世界をリードする国であり続けることができるでしょう。

今後も、診断、治療、産業が一体となったオールジャパンの力で、国民に最良の放射線医療を提供し続けるとともに、世界へ向けても「日本型放射線医療モデル」を力強く発信していきたいと考えています。

●参考文献

- 1) Why Japan is a leader in radiological research. *Nature*, 2023.
<https://www.nature.com/articles/d42473-023-00449-2>